

山口県立 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

人工膝関節置換術

(人工関節センター開設10年の経過と現状)



2020.11 Vol.42

- ①統括副院長挨拶(地域連携のさらなる強化を目指して) / ②③④特集 人工膝関節置換術(人工関節センター開設10年の経過と現状)
- ⑤看護部通信 看護師がその人らしく働ける職場を目指して / ⑥地域医療連携ニュース “withコロナ”時代における新たな会議の形 院長だより
- ⑦インフォメーション 組織の新設 名称変更について・当院の「新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組み」・広報番組放送予定・編集後記
外来診察担当医表(別紙)

地域連携のさらなる強化を目指して



統括副院長
患者支援連携センター長

藤井 崇史

新型コロナウイルス感染症の拡大により、新規患者数が減少し、病床利用率がなかなか上昇しない状態が続いています。当院では安心して入院していただくために、発熱患者や新型コロナウイルス感染症の可能性を否定できない方には院内で新型コロナウイルス感染症検査(LAMP法)を行い、感染のないことを確認しています。

新規入院患者数を増加させるための対策として診療科の診療内容をより多くの方々に知っていただくために、いくつかの診療科名の変更と新たな診療科を新設しました。

より分かりやすくするために「脳・神経疾患センター」は「脳卒中センター」と改名し、センター長は浦川 学医師が就任しました。これから増加する脳血管疾患に焦点を当て、より紹介しやすいセンターになることを期待しています。

さらに形成外科、血管外科、内分泌内科を中心に「下肢創傷ケアセンター」を新設しました。センター長は形成外科の宮内律子医師です。糖尿病や閉塞性動脈硬化症で発生する難治性下肢潰瘍を医師だけではなく、看護師、リハビリ、管理栄養士が加わる集学的な治療を行うセンターとしては全国的にもめずらしく、その成果が期待されます。

また、新しい診療科として「遺伝診療科」を新設しました。今後、需要が増える遺伝子診療を横断的に取り組む診療科として多くの診療科が協力します。その他に耳鼻咽喉科は「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」へ、外科はその下に新たに「呼吸器外科」を標榜しました。

当院の患者支援連携センターでは紹介患者の受け入れ、退院に向けての在宅療養支援、転院先の紹介、社会福祉の相談等をシームレスに行えるよう、地域医療連携室、入退院支援センター等の連携を強化しています。その中でも各地区の「かかりつけ医」の先生方との連携が特に重要と考え、多くの病院や診療所の訪問も行っています。今後も地域医療に少しでも貢献できますよう、努力してまいりますので、宜しくお願ひいたします。

特 集

Total Knee Arthroplasty : TKA / 人工膝関節置換術

人工関節センター開設10年の経過と現状

2010年に県内で最初に誕生した当院の人工関節センター。地域のみなさまに支えられ、今年で開設から10周年を迎えます。この10年間を振り返るとともに今後の展望についてご紹介します。

低侵襲手術の導入

2019年4月、田中浩先生の副院長就任に伴い、後任として人工関節センター長を拝命し1年半が経過しました。当センターは、1970年代後半からセメントレス人工股関節(THA)と骨盤骨折の外科的治療の二つの分野で、日本の整形外科の中で第一人者として足跡を残された名誉院長の弓削大四郎先生の流れを汲みます。低侵襲手術のDAA(Direct Anterior Approach)という方法も弓削先生によって、日本で最初に当院に導入されました。このDAAは、技術的に特殊な面もあり一時期は廃れていたのですが、ヨーロッパで見直され、改良進化した方法を人工関節センターの開設時から採用しています。これは低侵襲手術の代表格で、小さい皮膚切開、筋肉温存、早期社会復帰、脱臼防止などの合併症の減少といったメリットがあり、広島や島根、福岡など県外から多くの患者さんが来られるきっかけともなりました。



人工関節センター長 椎木 栄一

当院の強み

当院には多数の診療科が存在し、レベルの高い医師に診療科の垣根を越えて容易に相談できる環境があります。人工関節手術を受ける患者さんの平均年齢は70歳を超え、中には90歳前後の方もおられます。循環器疾患、脳神経疾患、消化器、呼吸器疾患、腎疾患など合併症のある患者さんも少なくなく、手術法の選択に難渋することもしばしばです。

『あきらめていたけど、手術して脚が痛くなれば…』合併症のある患者さんが膝の痛みからの解放に希望を抱いて来られます。患者さんのこういった思いに寄り添い手術をすることは医者冥利に尽きますが、他科の先生の理解と協力なしには不可能です。

また、手術後の患者さんのケアにあたる看護部、リハビリテーション科、薬剤部のスタッフが非常に協力的であり、当院には、強い使命感を持った人材が多数在籍しています。

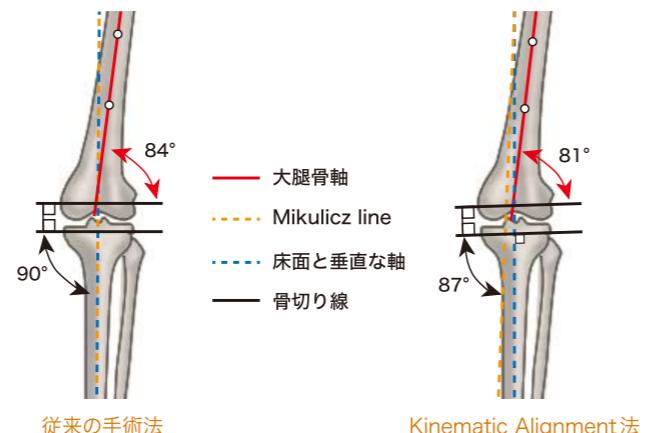
超高齢社会を迎え、膝に痛みを抱える患者さんは年々増加しています。健康的な生活のためには、痛みや変形のない膝関節であることは重要です。このような手術が当院で受けられることを知りたい機会になれば幸いです。



進化する人工膝関節置換術

最小侵襲手術(MIS:Minimum Invasive Surgery)、ナビゲーションシステム^{*1}やPMI(Patient Matched Instrument)^{*2}を導入して、より低侵襲で精度の高い手術を目指しています。2020年1月からは新たにKA(Kinematic Alignment)法を取り入れ、ナビゲーションシステムなどと組み合わせることで最先端と言える臨床応用を行っています。

KA法は、従来の下肢のアライメントを患者さんの生理的に本来あるべき形態の再現を目指したものであり、昨今の日本の整形外科の大きなムーブメントとなっています。KA法により、患者さん個々の自然な関節面の傾きが再現できれば、大腿四頭筋に効率的に力が伝わり、階段の昇降に優れ、歩行スピードも速く、歩行時の上体のバランスを取りやすいというメリットが期待できます。さらにロボット手術(Robotic Surgery)の実施を目指し、2018年から準備を行っていましたが、2020年11月にジンマー・バイオメット社のデモ機(国内で2台目)を導入しました。



^{*1} ナビゲーションシステム…CT画像と手術を行っている部の画像をリンクさせ、骨に取り付けたアンテナの位置情報をもとに、事前のシミュレーションで算出した取り付け位置と角度を、確認しながら手術が行えるもの。
^{*2} PMI(Patient Matched Instrument)…骨のCTやMRIの画像をもとに、患者さん個別の3DCGモデルを作成し、取り付ける人工関節の形状に合わせた形に切り出すためのガイドを作り手術を行う手法。

全国トップレベルの手術件数

人工関節手術の総数は、2019年には股関節と膝関節を合わせて年間600例(THA:253例、TKA:353例)を超え、全国的にも認知される病院となっていました。手術患者さんの住所分布では、病院の所在する防府市が32.3%、隣接する周南市及び山口市から31.4%、広島県や島根県から18.4%と、広いエリアから来院されています。当センターのこれまでの実績に期待していただき、防府市外から多くの患者さんに選んでいただいているいます。

また、患者さんだけでなく県外他施設の整形外科医、病院スタッフ(看護師、理学療法士)も手術や手術室、組織の勉強などを目的に見学に来られるようになりました。他大学、他病院との交流も非常に盛んで、横のつながりも広がっています。

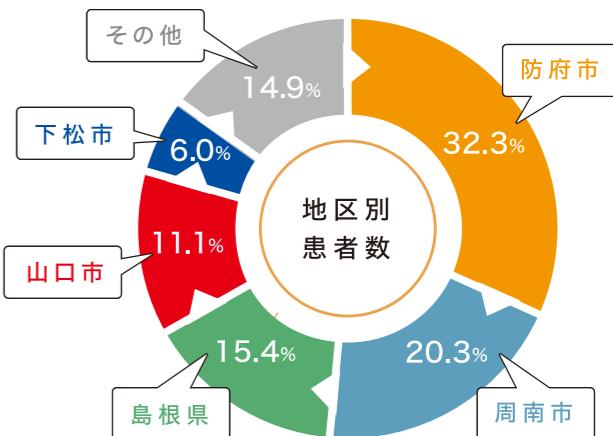
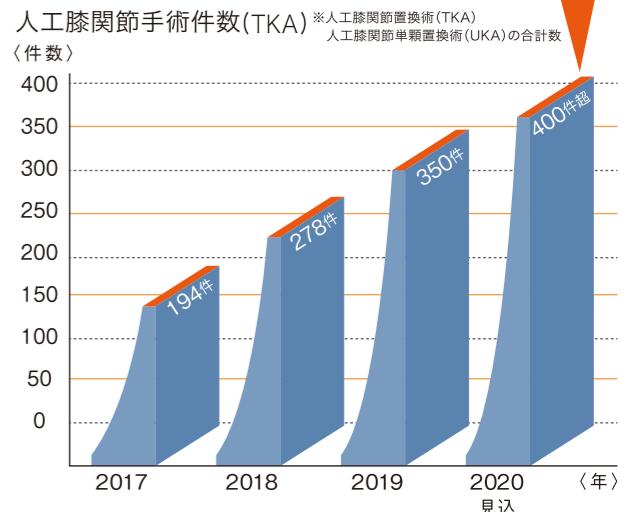
さらに、臨床研究では、今年から大学の関節グループとのコラボレーションにより複数の共同研究に着手して、質の高い論文作成を目指しています。多数の手術症例のデータをより緻密に幅広く集め、データの集積と解析を行い、患者さんにフィードバックすることも重要な仕事の一つと考えています。

人工関節センター長 椎木医師より

患者さんが自分の家族であればどうするか

私の母は、合併症も多数ありますが、股関節、膝関節、腰椎を当院で手術しています。患者さんが手術を希望されれば、それに可能な限りお応えしたいと思っています。術後に曲がらない、痛みが残るなど愁訴が強い場合に、原因がわかれれば再手術も行います。当院は3次救急を担う病院で、整形外科医が関わる機会も多い一方、慢性疾患をお持ちの患者さんも多くご紹介いただいています。この中には、整形外科以外の先生からの紹介も少なくありません。時間を作り、各病院、医院の個々の先生方にご挨拶ができればと考えております。患者さんがより良い生活が送れるよう、良質な医療の提供に努めてまいりますので、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2020年 人工膝関節
手術件数
400(見込)
件超



看護師がその人らしく 働く職場を目指して

人材育成・採用担当主任
小川 佐知子



苦しんでいる方々の支えになりたい…そんな思いで看護師を目指し、緩和ケア認定看護師としてキャリアを積んできた中、2020年4月から人材育成・採用担当主任に任命されました。4月から病棟勤務を離れ、看護実践から一旦遠ざかることは、私には覚悟が必要でしたが、看護実践の基礎を形成する新人看護師教育や指導者の育成、リクルート活動などに携わることは、今の自分ができる組織貢献だと考え、任務を引き受けたことにしました。

私の役割は、看護職員の確保、新人看護師の離職防止、新人教育のための人材育成や体制づくりで

す。私が目指す新人看護教育における大事な概念は、各配属部署において『自分の居場所がある』と思える育成風土が出来上がることです。そのため、新人看護師指導者には、新人看護師とのコミュニケーションを大切にした指導スキルの向上、悩みの共有化と対策実施ができる研修を開催しました。また、新人看護師には、メンタルサポートの研修導入に加え、個別での面談を通してメンタルケアと実践指導を行っています。新人看護師のレジリエンスを引き出し、部署看護師全員で新人看護師を育て醸成していくには、私自身が看護師一人ひとりと真剣に向き合うことが大切だと考えています。

また、今年度は看護部のホームページの更新や就職説明会にも力を入れることとなり、私も立案・作成に参加しました。ホームページを通して、新人看護師だけでなく、日々頑張っている看護師の姿を多くの方に知っていただくのも、私の重要な役割だと思っています。

看護の基本である「相手の立場に立ち、専門的知識やスキル、思いやりを持って、その人らしく生きることを支える」姿勢は、患者さんだけでなく看護師に対しても同じです。人材育成・採用担当主任として、特別なことはできていませんが、看護職員一人ひとりを大切に思い、看護師が安心・安全に働ける職場づくりの一助になれるよう努めていきたいと思います。



地域医療連携ニュース

“withコロナ”時代における新たな会議の形

～地域医療連携室のオンライン会議への挑戦～

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐ観点から、当院が開催する多くの「対面による会議」を中止してきました。しかし、感染予防を行いながら日常の生活や業務を遂行していく、いわゆる“withコロナ”的時代にあって、当院としても感染予防に配慮しながら必要な会議を安全に開催する方法を模索してきました。その一つの方法として、オンライン会議を開催したいと考えています。



オンライン会議とは

インターネット回線を介して病院や事業所等を結んで行う会議方式です。
会議に参加していただく場合、以下の手続きが必要です。

- 会議を開催する日時とその時にアクセスしていただくアドレスが記されたEメールを送信します。
- 会議当日にそのアドレスをクリックしていただくとオンライン会議が可能となります。

会議に参加していただくためには以下の機器をご準備いただく必要があります。

- パソコン ○WEBカメラ・マイク(パソコンに内蔵されればそれで可)
- インターネット環境(Eメールの受信ができる体制) ※お手持ちのスマートフォンやタブレット(インターネットに繋がるもの)でも参加可能です。

オンライン会議というだけでとても難しい印象を持たれると思いますが、実際に開催する場合は、詳細な案内をさせていただきます。また、接続の確認等を兼ねてリハーサルも実施する予定です。

“withコロナ”的時代の新たな会議の形、オンライン会議の可能性を探るために、みなさまにご協力をお願いすることになりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。



朝晩はめっきり涼しくなってきました。病院経営が正念場を迎える時期もあります。感染症指定医療機関としての任務遂行も未だまだ続きます。Made in Japan のN95マスクの品不足が続く中、職員の身体の安全確保について日々苦惱しています。例年行っている県民公開講座を今年度は未だ対面方式で実施できていないので、本講座を楽しみにしておられる県民のみなさまに対し大変申し訳なく思っています。さあ、やがて来る冬の訪れに万全の備えをしよう。



武藤 正彦

組織の新設・名称変更について

新 設

名 称	診療部長・センター長
遺伝診療科	佐世 正勝 医師(産婦人科)
呼吸器外科	金田 好和 医師(外科)
下肢創傷ケアセンター	宮内 律子 医師(形成外科)

名称変更

変更前 → 変更後	診療部長・センター長
耳鼻咽喉科 → 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	竹本 剛 医師(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
脳・神経疾患センター → 脳卒中センター	浦川 学 医師(脳神経外科)

ホームページで当院の「新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み」をお知らせしています

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にかかる当院の取り組みをホームページでお知らせしています。連携機関向け、患者さん向けのお知らせを掲載しておりますのでご覧ください。

やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

放送日時	放送内容	出演
11月 7日(土) 18:55～19:00	やりたい看護がここにある ～ひとに向き合う看護をめざして～	消化器病センター 古谷 桃香 看護師
11月 11日(水) 15:55頃～	やりたい看護がここにある ～看護の心を伝えていく～	人材育成・採用担当主任 小川 佐知子 看護師
12月 5日(土) 18:55～19:00	ほくろ癌(メラノーマ)に対する新しい治療	皮膚科 山田 隆弘 医師
12月 9日(水) 15:55頃～		
1月 9日(土) 18:55～19:00		
1月 13日(水) 15:55頃～		

○編集後記

もうすぐ5歳になる息子が自転車に乗れるようになりました。派手に転んでしまった春からしばらくは乗れない日々が続きましたが、見事にトラウマを克服しました。

これをきっかけに私も週2日を目標に自転車通勤を始めました。だんだんと冷たくなっていく風や、冬の匂いを楽しみながら通勤しています。無理のない程度に不便なことや時間のかかるなどを、敢えてやってみるのも良いものです。(企画調整室H.A)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

地方独立行政法人
山口県立病院機構

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymghp.jp/>